

下婢と兒童

女高師 東 基 吉

▲我國の家庭に於て教育上迷惑を感ずるものは實に下婢である。元來教育もなく躰もないものであるから不足は云へない道理であるが然りとて之を捨て、置けば随分色々な都合を生ずる。子どもが思ひもつかぬ中に種々な悪習慣を養生せらるゝのは多くは此下婢の模範により得たのである。

▲一体我國に於ける下婢と兒童との關係は何處の家でも主從關係で従つて子どもも下婢に向つて或種の權威を以て居るので茲に種々な弊害を生ずるの源因が伏在して居るのである。是は我國の家庭教育を改善するには根本問題であらうと思ふ

▲外國では下婢は如何なる家庭でも主人の小供を呼び捨てにするのである。何か行爲上の事を云ふにしても「メリーお前斯ふするんだよ」など云ふ様であるし、小供も「お前は松じやないか奉公人の癖に何を云ふのだへ」など、小さな主人風を吹かすものは藥にしたくもないのである。是は召

使は小供の召使ではなくて主人の召使であること又召使としても小供に對しては大人である。小供は大人に對しては相當の敬意を拂はなければならぬと云ふ考へから來たのである。勿論外國では下婢と雖ども相當の教育あるが故に斯かる風に行ふ譯には行かないが、あまりに坊様ごかしにする家庭へは少し此主義を加味したいものである。

▲又下女とても置く位ならあまり無教育のもの止めたらよいと思ふ勿論下女奉公する位なものに満足な教育を受けたものはないにしても其人物次第で可なりに使へるのであるから大に選擇しなければならぬ。

▲又下女に因ると主人が如何に云ひ付けて置いても陰に廻はつて子供の虚榮心を増長させ御機嫌を取つて甘へさせるものがある。そして私かに自己の地位の安固を計るものがある。會々多くの下女の中に篤實なものがあつて陰日向なく子供を待遇すると却つて子供のお覺目出度からず遂にはお奥の信任も害して放逐の難に遇ふことなどがある

ので矢張怪しからぬ不心得の下女が末永く跋扈するるのである。

▲僕の知人に頼る家庭教育に意を用ゐて居る人があつて決して子供に間食をさせぬ事にするのだと云つて本年の春生れた赤子に對して食事の時間と分量とを嚴重に極めて居る人がある。所が其子守が少し宜しからぬもので負ふつて出ては外で牛乳の代りに水などを瓶に入れて飲ませたり、焼芋を買つて食べさせたりしたので折角の苦心を水の泡にして居つた事がある。

▲又ある處の下女は主婦の留守をしながら子どもを椽端で遊ばして居た時誤らて其子を椽から落したのを其儘拾ひ上げて兩親に語らず誰にも見せず置いて。數日の後小供があまり痛がつて泣き止まないからとて兩親は何うかじたのかしらん位で醫師に見せた處が、是はしたり、一方の足の骨が挫折して居て而も手後れの爲めに療治困難で遂に今日では相當の年輩になつて尙全くの畸形になつてしまつたと云ふことである。

▲是は或る幼稚園での話であるが下女は家に居て

働くよりは子供に付添ふて幼稚園に来て居る方が樂なので子供に對して態と子供の離れない様に仕向けて殊更に幼稚園に附添ひ來るものがあるをだ。斯る子供は何時迄も附添人を傍に置たがつて仕方がないと云ふことである。誠に兩親の氣の付かぬ所で、下女や何か教育の妨害とするのは残念な事である。下女下男を多く雇ひ置かるゝ中では兒童教育上十分此邊の指揮監督を嚴重にしなればならぬ。

齒の保護

齒を養ふには石灰鹽を多量に含む食物を取るにあり、石灰鹽を含有する食物は

- | | | | |
|-------|---------|-----|------|
| 青海苔 | 芋莖 | 海風腸 | 味噌 |
| 名古屋味噌 | 蕨 | 黑胡麻 | シヨ目刺 |
| 淺草海苔 | 秋刀魚(鹽藏) | 鰺鮓 | 大豆 |
| 胡瓜 | 菜豆 | 蠶豆 | 小豆 |
| 胡桃 | 無花果 | 大麥 | 豌豆 |
| 玉蜀黍 | 小麥 | 柿 | 蕎麥 |

(志村齒科醫院長食道樂)